

おはなしレストランの現在
－2023 年度活動報告－
Current status of Ohanashi Restaurant
2023 activity report

尾崎智子 内田絢子
(おはなしレストランライブラリー司書)

キーワード：児童図書館、読み聞かせ、絵本、演習型授業

1. はじめに

「おはなしレストラン」とは、島根県立大学松江キャンパスで行っている学生による読み聞かせ活動と、児童書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」の取り組みの総称である。おはなしレストランの活動は、2005 年度に松江市立病院小児科病棟での課外活動ボランティアから始まり、この春 19 年目を迎える。おはなしレストランの取り組みについては、以前「おはなしレストラン事業成果報告書」(2012 年)でまとめたが、定期的に活動を振り返る年報等は作成してこなかった。

20 年目を目前に控え、これからも活動を継続していくにあたり、おはなしレストランの現在についてまとめておきたいと考えた。今後も、定期的に活動を振り返り、報告をする予定である。その第 1 歩として、ここでは、2023 年度のおはなしレストランの取り組みについての報告と今後の展望を述べる。

2. おはなしレストランライブラリーについて

まず、「おはなしレストランライブラリー」の利用状況等を、統計や配布物を元に述べる。

1) 蔵書統計

2024 年 2 月末現在、おはなしレストランライブラリーの蔵書冊数の内訳は、図 1 の通りである。

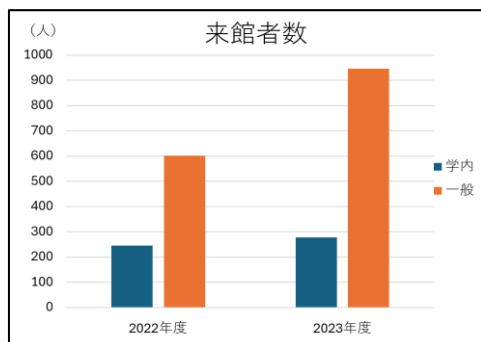
絵本	大型絵本	紙芝居	その他	合計
14,286 冊	293 冊	859 冊	5,945 冊	21,383 冊

(図 1) おはなしレストランライブラリーの蔵書統計

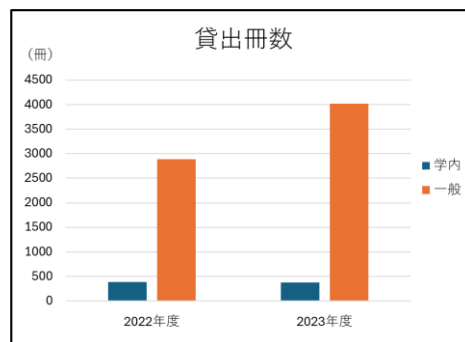
2) 利用統計 (2022 年度と 2023 年度の比較)

図 2 及び図 3 は、2022 年度と 2023 年度の来館者数及び貸出冊数の月平均を

比較したグラフである。



(図 2) 来館者数の月平均



(図 3) 貸出冊数の月平均

学内利用については、利用者数、貸出冊数共にあまり変化がなかった。2022年度は、授業等で利用する学生が多く、2023年度もその状況が継続したためであろう。

一般利用については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2022年度まで人数制限や時間制限を設けていた。2023年5月より制限を解除したところ、月平均で来館者数が344名、貸出冊数が1,132冊増加している。

また、2023年度は、6月に松江市内全ての幼稚園・保育所へおはなしレストランライブラリーの宣伝チラシを配布し、新規利用者が増えたことも利用増加につながった。新型コロナウイルス感染拡大後は利用制限もあり、宣伝を控えていたが、おはなしレストランライブラリーをより周知するため、情報を発信していくことの重要性を改めて実感した。今後もチラシ配布等での周知を継続して行いたい。

3) 配布物

おはなしレストランライブラリーの周知や、絵本についての情報発信を目的とし、以下のものを作成している。

①おはなしレストランだより（毎月1回発行）

季節に合った本や新しく入った本を写真付きで紹介している。

②おはなしレストラン宣伝チラシ（6月発行）

おはなしレストランライブラリーを多くの人に周知することを目的に作成。松江市子育て支援課のBOXを利用し、松江市内の幼稚園・保育所に配布した。

③2023年4月～2024年3月の間に発行された絵本を10冊程度選び、学生や利用者に一番好きな本とその理由を記入してもらうというイベントを企画している。その結果を利用者に配布する予定である。

3. 授業「読み聞かせの実践」

この授業は、教員3名（春学期：非常勤講師3名、秋学期：常勤教員1名と非常勤講師2名）で担当しており、おはなしレストランライブラリーの司書2

名も非常勤講師として授業に関わっている。「おはなしレストラン 10 か条」を読み聞かせの活動をする上での指針とし、絵本への理解を深める「作品解釈ノート」や実践の流れ等をまとめる「実践プラン」の作成、学内での模擬、学外での実践、実践を振り返る「実践記録ノート」の作成を繰り返すことで、PDCA サイクルを生み出している。

1) 受講人数（2023 年度）

春学期：保育学科 16 名、地域文化学科・文化情報学科（2 学科合同）16 名

秋学期：保育教育学科 41 名

2) 実践場所及び実践回数（年間・2023 年度）

松江市立乃木小学校：7 回

松江市立幼保園のぎ：17 回（うち、1 回は動画撮影による実践）

おはなしレストランライブラリー（おはなしのじかん）：5 回

3) 実践の様子

ここでは、2023 年度の実践の様子や 2022 年度からの変化について述べる。

（1）松江市立乃木小学校

松江市立乃木小学校（以下、乃木小学校とする）では、地域文化学科・文化情報学科・保育教育学科の学生が実践を行う（図 4）。2022 年度までは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で子どもたち全員が自席で学生の読み聞かせを聞いていた。2023 年度は、従来のように前に集まって聞くクラスもあり、子どもたちの様子をより（図 4）乃木小学校での実践の様子



近くで感じながら読み聞かせができるようになった。

また、新型コロナウイルス感染拡大以降、プロジェクターを使用するクラスも出てきた。プロジェクターでの読み聞かせは、全員に絵を見せやすい反面、大きさによっては見開き全体が映らない絵本があることや、子どもの反応が見えにくい等、読み手としては難しい面もある。

その一方で、プロジェクターでの読み聞かせを聞いている子ども達は、画面を見つめながら、よく聞いていた。子どもたちに、よりお話を楽しんでもらえるためには、どのような態勢で読むといいのか。乃木小学校の先生方と連携をとりながら今後も検討を続けたい。

（2）松江市立幼保園のぎ

松江市立幼保園のぎでは、授業を受講する全ての学生が実践を行う（図 5）。2022 年度春学期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実践



（図 5）幼保園のぎでの実践の様子

を行うことができなかった。2023 年度は、春学期・秋学期通して実践を行うことができた。

学生の「実践記録ノート」を見ると、「絵を見ながらたくさん話してくれた」「絵本を読み始めると集中して聞いてくれ、絵本の持つ力を感じた」等、子ども達の前で読んだからこそその気づきを得たことがわかる。泣いている子どももいれば、自分たちの声が子どもたちの声にかき消されることもある。練習通りには進まない。それも大切な学びである。それも含め、対面で読み聞かせができることのありがたさを教員も感じる時間であった。

(3) おはなしのじかん

授業「読み聞かせの実践」において、「おはなしのじかん」での実践は、保育学科のみ行う。この他、おはなしレストランボランティア¹⁾の学生も活動するが、それについては、「4. 学内活動」で詳しく述べる。

保育学科の学生がこの実践を行う利点は、子どもも大人も一緒になって絵本を楽しむ姿や、絵本を通した親子での関わりを見ることができる点である。

2023 年度の受講学生からは、参加者が親子で会話をしながら絵本を楽しむ様子についての言及に加え、「保護者の方も聞き入るようにして下さるとは思っていなかった」等の声が聞かれた。中には、「保護者の方にも楽しんでもらう」ことを考えて選書を行う学生もいた。保育者になる学生は、この先、保護者との関わりのなかで、絵本を紹介する機会もあるだろう。ここで得た気づきを活かしてもらいたい。

4) 変更点とその成果

2023 年度変更した点は、「実践記録ノート」のコメント欄、「教員より」の削除である。これまでは、学生が記入した「実践記録ノート」に、教員がコメントを記入していた。提出後、コメントを記入するまでに時間がかかる点や、学生が教員のコメントに目を通したかどうか確認できない点が気がかりだった。

2023 年度は、「実践記録ノート」に書かれた質問への回答や全体で共有したい点等を、学生全員に向けて口頭で伝えた。これにより、提出から時間を空けずにコメントができるようになった。また、授業時間内に直接伝えるため、学生たちへ教員のコメントが届きやすくなった。

5) 授業を振り返って

「おはなしレストラン 10 か条」の中に「自分の心で子どもの心で」という項目がある。まずは自身が絵本と向き合い、自分の心に響いたのはどの場面か、読み聞かせを通して子どもたちに何を伝えたいのかを考えるよう指導している。

春学期に、ある学生が選んだ絵本は、乃木小学校での読み聞かせの時間を超えていた。教員は選書変更も考えたが、この絵本を「読みたい」という学生の

強い思いが見えたため、先方に「長くなります」ということ伝え、変更なしで読み聞かせを行った。読み終えた学生は「読んでいる側も時間を忘れるぐらい、子どもたちと物語に入ることができている感覚があった」と記録している。実践の様子を見ていた教員も、「驚くほど子どもたちが聞いていた」と言っていた。

他の学生を見ても、自分の心も大事にしながら読み聞かせを行うと、絵本に対する思いが聞き手に伝わるということがよくわかる。自分の心を忘れがちな学生もいる。学生の思いを引き出しながら、今後も授業を進めていきたい。

4. 学内活動について

1) 定期的に行っているイベント

(1) おはなしのじかん

「おはなしのじかん」は、毎週日曜日 11 時～約 30 分間おはなしレストランボランティアの学生と、保育学科 2 年「読み聞かせの実践」の授業受講者が、読み聞かせや手遊びを参加者とともに行う（図 6）。場所は、体育館 1 階第 1・2 研修室で行っている。



2022 年度は人数制限を設けて行っていたが、2023 年度の 5 月から人数制限をなくし、開催している。（図 6）読み聞かせの様子
2023 年度は、合計 1,101 名（2024 年 3 月 3 日現在）が参加した。7 月～9 月は参加者が多く、50 名近くが参加した日もあった。ただ、参加者が多いと、後ろまで声が届かず、絵本も見えにくく、途中から読み聞かせを聞かない子どもが多く見られた。また、参加する子どもの年齢は、0 歳～3 歳までの割合が多いため、文章量が多く、内容が難しい話だと、最後まで集中して聞くことが難しい。子どもの世話を追われ、絵本が終わるとほっとしている保護者の表情も見受けられた。そのせいだけではないだろうが、10 月に入ると参加者の少ない日が多いことが気になっていた。

そこで、乳幼児でも楽しむことができ、遠目の効く絵本、この 2 点に配慮し、選書をするよう学生に伝えた。その結果、参加者数が回復し、1 回につき平均 21 名程度が参加している。

子どもが絵本を聞いていると、保護者も、ゆったりとくつろぎながら絵本の世界に浸っているように感じた。学生たちの表情も変わり、「おはなしのじかん」終了後の学生の記録には、前向きな感想が見られるようになった。

また、「たなばた会」と「クリスマス会」を 2023 年度から再開した。「たなばた会」は約 70 名が参加した。想定外の人数だったため、絵本の選書等、配慮が足りず、お話が後方まで届かなかった。その反省を活かし、「クリスマス

会」では、全て大型絵本にし、楽器の生演奏や途中クイズもいれ、全体を劇仕立てに仕上げ、会場全体で楽しめるよう工夫をした。

参加者からは、「生の演奏が最高でした」「全部の絵本が楽しかった」との声を聞くことができた。

今後も学生とともに、参加者が「また来たい」と思えるような「おはなしのじかん」にしたい。

(2) わらべうたゆりかごの会

わらべうたゆりかごの会（以下、ゆりかごの会とする）は、毎月第2木曜日10時30分～約30分間、おはなしレストランのスタッフでもある非常勤講師岩田裕子が来館者に向けて行っている（図7）。司書2名も一緒にわらべうたで遊び、参加者のサポート等をしている。プログラムは毎月行っている定番のわらべうた7つと主に季節のわらべうた5つのプログラムで構成されている。その日遊ぶわらべうたの絵本を、プログラムとともに展示している。

ゆりかごの会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、約3年間休止していた。わらべうたは接触することも多いため、再開には熟考し、5月から再開することとした。

再開後最初の会については、カレンダー記載の宣伝のみだったが、予想以上の参加者が集まった。自粛期間が長く、親子で参加できる場所、触れ合いを求めているのだろう。再開後2回目以降は、毎回5



組～8組程度の親子が参加し、リピーター率が高い。（図7） わらべうたで遊ぶ参加者

ゆりかごの会に参加する子どもの年齢は、0歳～1歳の割合が多い。歩きたい盛りの1歳児は途中で違う場所へと動く姿も見られる。岩田は「遊びなので自由に動いてください」と声をかけ、離れてしまった親子のことも気にかけている。その声かけや、姿勢に保護者は安心し、参加させようと無理強いはしない。岩田は、遊び方についても柔軟に対応し、我が子に合わせ、アレンジしながら遊んでいる保護者に「その遊び方もいいですね」と声をかける。その様子を見て、他の保護者も、我が子に合わせて自分なりの遊び方をする。無理をすることなくゆったりと過ごせる時間が、リピーターを生んでいる理由であろう。

また、ゆりかごの会は、おはなしレストランライブラリーの中で行うため、参加者は自然な流れで絵本を借りて帰る。そして、わらべうたで遊びながら、保護者同士が声をかけあい、終了後、子育ての話等を楽しそうにしている姿も見られる。おはなしレストランライブラリーが交流の場となり、利用の促進にもつながっていることがわかる。

2) その他のイベント

2023 年度は、新型コロナウイルス感染拡大も収束したことにより、イベントの開催や、高大連携事業も多数開催することができた（図 8）。

図 8 より、2023 度からスタートした「県大生と絵本を楽しもう」について、詳しく述べることとする。

日付	イベント名・団体名	参加学生の学科・学年	内容
7月5日（水）	島根県立松江清心養護学校	司書	図書館についての調べ学習
7月15日（土）	第1回県大生と絵本を楽しもう	保育教育学科4年生1名、3年生2名	絵本の読み聞かせ講座
8月8日（火）	オープンキャンパス	保育教育学科4年生1名、3年生2名	絵本の読み聞かせ、読み聞かせの授業について
8月9日（水）	乃木第2児童クラブ	司書	絵本の読み聞かせ
8月21日（月）	こどものたいがく	保育教育学科2年生2名、4年生2名	読み聞かせ・手遊び
9月11日（月）	島根県立松江養護学校3年生	保育教育学科4年生1名、2年生1名	絵本の読み聞かせ講座
10月18日（水）	島根県立松江緑ヶ丘養護学校	仲間（教員）、保育教育学科3年生2名	ペープサート、読み聞かせ、手遊び
11月10日（金）	第2回県大生と絵本を楽しもう（オンライン）	保育教育学科3年生1名、司書	絵本の読み聞かせ講座
11月24日（金）	松江市立乃木小学校特別支援学級	保育教育学科3年生3名	絵本の読み聞かせ・手遊び
12月23日（土）	第3回県大生と絵本を楽しもう	保育教育学科4年生1名、3年生1名	絵本の読み聞かせ講座
2月8日（木）	瀬戸高校生活系列保育モデル2年生	保育教育学科4年生1名、3年生1名	絵本の読み聞かせ講座、わらべうたゆりかごへの参加
3月6日（水）	第4回県大生と絵本を楽しもう	保育教育学科3年生2名	絵本の読み聞かせ講座

（図 8）おはなしレストランライブラリーで行ったイベント

高大連携事業の一環である「県大生と絵本を楽しもう」は、絵本や保育に興味のある県内の高校生に向け、学生たちが絵本の読み聞かせや、読み聞かせについて話すというものである。オンラインを含め4回開催し、合計51名の高校生が参加した。

参加した高校生からは「絵本は大きくなってからでも楽しめることがわかった」「おはなしレストランには、面白そうな絵本がたくさんあって、とても興味がわきました」「子どもたちに読み聞かせをしたくなった」等の声が挙がり、高校生のうちに、絵本や読み聞かせの魅力を知ってもらおうきっかけとなっていることがわかる。

この取り組みは、学生主体となっていく。欠席者のいる回もあったが4回全て同じメンバーで行った。1回目は、話すことに精一杯だった学生も、回を重ねるごとに、授業で学んだこと、実習で感じたことを取り入れながら話すことができるようになった。学びを人に話すことにより、より定着するということができる。高校生たちからの感想にも「学生たちの説明がわかりやすかった」との声が多くあった。

3) 学生図書員会の活動について

学生図書委員会は、主に松江キャンパス図書館で、学生と図書館のパイプ役となって、図書館の利用を促進し、本の魅力を伝えるべく、様々なイベントの企画をしている。

学生図書委員会が主体で行う、おはなしレストランライブラリーでのイベントに「おはなしマラソン」と「としょかんクイズ」がある。ともに、おはなしレストランライブラリー利用者であれば誰でも参加できる。

「おはなしマラソン」とは、おはなしレストランライブラリーの本を読み、POP を 10 枚作成した参加者に、メダルと葉をプレゼントするというものである。毎年子どもたちの夏休みに合わせて開催している。2023 年度は 59 名が参加した。

もうひとつのイベント「としょかんクイズ」では、クイズに答えて全問正解すると、賞状と葉を参加者にプレゼントする。クイズのレベルが 5 つあり、就学前、小学校低学年、中学年、高学年、2023 年度から大人向けのクイズも新たに追加した。以前は、おはなしレストランライブラリーで問題を解く形だったが、利用時間を制限していたため、家で問題を解くという形に 2022 年度から変更した。本を味わってから解いてほしいとの思いもあり、2023 年度も 2022 年度同様の方法とした。親子で問題を解く家庭も多く、親子での関わりも促すことができた。2 つのイベントともに、参加者から好評である。来年度以降も継続したい。

5. 学外活動について

2023 年度、おはなしレストランの学生による学外活動は、図 9 の通りである。ここでは、「子どもアート Day²⁾」(図 10) について取り上げ、詳しく述べる。

日付	イベント名・団体名	参加学生の学科、学年	内容
8 月 23 日 (水)	放課後等デイサービスブルームへちま	保育学科 1 年生 1 名、地域文化学科 3 年生 1 名	絵本の読み聞かせや手遊び
11 月 19 日 (日)	子どもアート Day (島根県民会館)	保育学科 1 年生 1 名、2 年生 1 名、保育教育学科 3 年生 3 名、4 年生 1 名、地域文化学科 3 年生 1 名	学外の団体とコラボレーションし、絵本の読み聞かせや手遊び
12 月 6 日 (水)	島根大学教育学部附属義務教育学校	保育教育学科 2 年生 2 名、3 年生 3 名	劇や絵本の読み聞かせ、楽器の演奏
12 月 9 日 (土)	ブドリの家	保育教育学科 2 年生 1 名、3 年生 2 名	絵本の読み聞かせや楽器の演奏

(図 9) 学生が学外で行った活動

「子どもアート Day」への参加は、2022 年度に続いて 2 回目であった。イベント中に 5 回読み聞かせを行い、各回 5 組～20 組程度、0 歳～小学校高学年までと幅広い年齢の子どもたちとその保護者が参加した。

2022 年度との大きな違いは、学外団体である「オルガン・ピクニック」とコラボレーションし、楽器 (図 10) 子どもアート Day の様子の演奏と絵本の読み聞かせを組み合わせたことである。通常の読み聞かせとは違い、音楽が加わるため、本番まで期待と緊張が入り混じった様子の学生たちであったが、実際に演奏が聞こえると目を輝かせて楽しんでいた。想像以上の賑わい



で声が通らず、途中からマイクを使用した。が、学生たちは、突然の対応に戸惑いながらも笑顔で参加者に向き合っていた。

参加者も、親子で会話しながら絵本を指さしたり、一緒に手遊びをしながら口ずさんだりと、思い思いに楽しむ様子が見られた。各回の終了後には、参加者から「楽しかったです」「音楽が入ると、普通の読み聞かせとまた一味違って良いですね」等の声が挙がった。

このイベントにも参加していた「たのしい楽団」と、3月24日（日）にイベントを一緒に行う予定である。ここでの経験を活かし、様々な活動につなげたい。

6. 司書による学外へ向けた活動

2023年度、司書が学外の団体から依頼を受けて行った活動は、図11のとおりである。ここでは、「第1回島根県図書館大会³⁾」について詳しく述べる。

日付	イベント名・団体名	内容	担当者
8月28日（月）	ボランティアグループ「たんぽぽ」	絵本の紹介・読み聞かせ講座	尾崎
9月13日（水）	豊かな言葉を育てる部会	幼稚園の先生に向けて、絵本についての講話	尾崎・内田
11月4日（土）	第1回島根県図書館大会	おはなしレストランの取り組みについて事例報告	内田
12月14日（木）、2月27日（火）	島根県立安来高等学校	総合的な探究の時間における紙芝居作成について助言	岩田（非常勤講師）・尾崎
3月11日（月）、13日（水）	島根県立宍戸工業高等学校	高校生へ向け、読み聞かせ講座	尾崎

（図11）司書が学外から依頼を受けて行った活動

「第1回島根県図書館大会」（以下、大会とする）は、11月4日（日）、島根県民会館大会議室にて開催された。その中で、司書の内田が、事例報告としておはなしレストランの取り組みについて発表した。

大会には、図書館・学校・書店関係者、図書館や読み聞かせのボランティア等100名が参加した。

内田は、おはなしレストランライブラリーの基本的情報・司書が普段心がけていること・学生の読み聞かせ活動・今後の展望等を、スライドを用いて15分間で発表した（図12）。参加者は、司書が心がけていることや学生の読み聞かせ活動についての話に関心を持った印象であった。

また、大会の最後には、おはなしレストランボランティアである保育教育学科4年の岡本綾乃が、実演として大型絵本『だるまさんと』の読み聞かせを行った（図13）。岡本の読みに合わせ、参加者全員



（図12）事例報告の様子



（図13）読み聞かせ実演の様子

で身体を動かし、会場中に笑顔が溢れた。絵本の力もあるだろうが、岡本が笑顔で楽しみながら読み聞かせをしたことで、参加者の心がほぐれたのだろう。大会終了後、参加者から「会場の空気が和んでとても良かった」との声が挙がった。

7. 今後について

2023 年度、おはなしレストランライブラリーでの大きな変化と言えば、利用時間の制限が解除されたことであろう。そのことにより、利用者との会話が増え、レファレンスや子育ての悩み相談にじっくりと時間をかけることができるようになった。館内での読み聞かせの声や、笑い声も聞こえ、新型コロナウイルス感染拡大前のように戻ったと感じている。

おはなしレストランライブラリーの一般利用者数、「おはなしのじかん」の参加者数については、前述したとおり安定している。ただ、新型コロナウイルス感染拡大前からではあるが、0 歳～3 歳までの利用が多く、小学生、特に中学年以上の利用者は少ない。現状、小学生が新規で来館しても、数回の貸借で、利用が止まることが多い。

小学生以上の来館者を増やすために、おはなしレストランとして何ができるのか。小学生向けのイベントの開催、おすすめ絵本リストの配布、POP の作成、配架の工夫等、案として出ており、今後取り組む予定である。

学生については、サークル活動の準備、授業や実習のための選書等、目的のあるときに利用することが比較的多い。学生も「参加したい」と思えるようなイベント等を企画したい。

おはなしレストランライブラリーが、学生にとって生き生きと活動できる場となり、絵本の魅力を様々な方法で発信できれば、地域の人々にも伝わる。今後も、学生とともに、おはなしレストランの活動を充実させたい。

最後になったが、実践の場所を提供してくださっている、松江市立乃木小学校、松江市立幼保園のぎのみなさま、おはなしレストランライブラリー利用者のみなさまに感謝申し上げます。

【注】

- 1) おはなしレストランライブラリーを拠点に、読み聞かせ等の活動を行う学生サークル
- 2) 地元で活躍するアーティストやパフォーマー等が結集し、子どものためのアートプログラムを展開するイベント
- 3) 島根県図書館協会が主催し、島根県の図書館サービスの向上や、図書館と読書の振興を図ることを目指して開催している大会